

特集

最近、私はこんな仕事をした

厳しい経済状況は続いているものの、仕事が楽になるということはありません。こうした時代だからこそ、周囲がどのような業務をしているのか気になるところ。今回は「あなたが最近やり遂げた仕事は？」というテーマ設定で、思い思いに寄稿してもらいました。

築理会メンバーの活躍を実感

増田健児(部12期)

(株)NTTファシリティーズ首都圏事業本部
都市・建築設計部



電電公社建築局に就職したつもりが、まもなく民営化でNTT建築部に、そうこうしているうちに建築部門と通信電源部門が6年前に(株)NTTファシリティーズ(100%子会社)として分社化さ

れ、今はそちらの所属になっています。というわけで、最近ではNTTの建物の他に細々ながら官公庁物件や一般民間からの設計受託も手がけています。元々電電時代から通信建物の他、オフィス、研究所、研修所、病院、社宅、保養所など多様な建築を設計し保全してきていますので、NTT以外からの仕事も違和感無く実施しております。しかしながら、バブル崩壊以降の建設プライスの激変とお施主の財布の紐のしまり具合には悩まされています。また、設計事

務所の社会的位置づけの限りなき低下は何とかならないのでしょうか。とはいえ、最近竣工した高級賃貸集合住宅の案件では企画の指導を頂いた会社に築理会の後輩の方が居たり、他の案件ではゼネコンで活躍している同窓生にお会いしたりして、築理会のメンバーが結構活躍しているなど安心しております。

極めて短時間での内装設計を体験

石橋敦之(部16期)

佐藤総合計画

7月20日 海の日 有楽町駅前の東京交通会館1階に”どさんこプラザ”がオープンした。正式名称は、北海道観光物産館、道庁経済部が企画するアンテナショップである。知事のテープカット以来10日程たつが、予想を上回る盛況ぶりのようだ。事務所のカラーから入社以来、庁舎、文教施設等、様々な公共建築の設計に携わってきた。その中でこの仕事は、極めて短時間での内装設計で、かつ、アンテナショップといういわゆる公共建築らしくない(いかに多くの人を引きつけ、いかに北海道をアピールするかが勝負であるという意味で)施設であった。しかし、その短期間に利用のプログラムから、店舗のイメージづくりまで参加できる機会があった事がとても楽しかったと言える。設計には、用途・規模を問わず必ずソフトの提案が必要であるが、様々なアイデアや意匠上のイメージから機能・内容のグレードに至るまで提案し、決定するには、広い分野の知識と様々な専門家とのネットワークやコラボレーションしてゆく能力が重要である事を再認識した。テーマは、都会に失われた季節感を先取りするショップ。焼きたてのホタテや鮭・かに、アスパラが食えて、生ビールが飲める。新鮮な野菜や果物にチーズ、ワインといった北海道の雄大な大地からの恵を距離感なく提供してくれる。やがて10月になれば一足早く冬景色の映像で冬の訪れを紹介してくれると思う。

西新宿の大型開発で構造をとりまとめ

小林利和(部20期)
日本設計構造設計部

私はこの数カ月間、かつてない忙しさに見舞われている。折角の夏季休暇も返上してしまった。日本設計に入社して以来こんなにも忙しいことは、初めてではなかろうか。

なぜかという、実は西新宿六丁目南地区再開発施設の実施設設計が大詰め段階にきているからである。この施設は、地上38階と23階のオフィスビルを中心に住宅棟や新宿区の施設などが計画される延べ面積にして約16万4千㎡の複合施設である。私はこの施設の構造設計を任されているのだが、施設全体のまとめ役として責任ある立場にある。建築チームとの折衝はもちろん、施主との折衝ごとすべて行う。また、23階のオフィスビルは、日建設計が担当しており、こちらとの構造設計上の調整もすべて私の仕事となる。それにしても、このような大規模な施設にしては、設計スケジュールが非常にタイトであり、このスケジュールを守るという使命が、忙しさに輪をかけているのである。

それぞれの施設の構造方式は多種多様であり、個人的には、非常に面白いと自負している。38階のビルには粘性体の制振壁を、23階のビルには低降伏点鋼の制振壁を用いた制振構造、住宅棟は12階建であるが、3階床下に免震部材を設けた免震構造としている。再開発街区全体で統一の取れた構造性能を保有させることが目的である。この施設は、7月26日の高層建築物構造評定委員会に提出し、つい先日、8月25日に一日がかりで審査部会を受けた。このように長い部会も初めてである。審査する先生方も初めてなのではないだろうか。とにかく、まだまだやることは数多くあるが、西新宿の超高層ビル街区の中で今世紀最後の大規模再開発であることを念頭に、皆様に自慢できるような構造設計をやり遂げるつもりである。

7年ぶりに施工管理を担当

中嶋岳夫(部9期)
共立建設株式会社企画設計部

築理会の皆様、日頃お世話になっております。二部88年卒(清水研)の中嶋と申します。卒業以来、共立建設というゼネコンに勤務して

おります。入社して11年が経ちましたが、設計・現場・研究開発と色々な部署を経験し、現在意匠設計部門に席をおいております。「最近の仕事」がテーマということですので、昨年末から春の出来事について書かせていただきます。

昨年末、突然の業務命令により7年ぶりに現場施工管理をしてきました。新潟のNTT局舎の外壁改修工事です。工期は12月から3月末までの約4ヶ月、極寒の新潟での外部工事でした。工事内容は、3棟ある建物のうち、一棟は外壁を撤去しガラスカーテンウォールに改修し、残りの二棟はコート壁に改修するものでした。少ない現場経験、短い工期、悪天候など不安要素は数々ありましたが、無事工期内に完成することができました。つらい4カ月ではありましたが、非常に良い経験をしたと感じております。

初めての地、新潟で単身赴任の私の活力となってくれたのは、美味しい地酒と日本海の美味しいお魚でした。これもまた、良い経験でした。

JR わきの現場に多くを学ぶ

深谷進一(部13期)
(株)松村組東京本店建築部

1年数カ月、同じ建物の工事に携わっているのですが、今の仕事を紹介したいと思います。

昨年5月より今年の10月まで、千葉県との境の、江戸川近くの東京都江戸川区小岩にて、マンション(地下1階地上14階建)、鉄骨鉄筋コンクリート造の施工管理(現場監督)を行っています。仕事の内容としては、各種の図面チェック(鉄骨工作図、金属製作図他)や躯体図などの図面作成、また、各職種の品質、工程管理です。

工事現場の北側の道路を挟み、JR総武線が走り、かつ、建物の高さが経験のない高さなので、クレーンを使う搬出入や、足場などの仮設物に対する強風に、今までとは違った気を配ると共に、JR(保線)との安全確保の為の打合わせなど、初めての経験も多く、卒業して7年たった今でも、学ぶことの多い毎日を過ごしています。

この原稿を書いている今日、建物を囲んでいる足場解体準備の最中です。この解体までに完

了しなければならない仕事、その仕事を着手する為の工事といった具合に遡り、足場解体の予定を遅らせず、かつ、製品の品質を確保する事が焦点です。暑さの和らぐ9月には、総武線小岩駅近くの高架橋のそばに、完成を間近に控えた、私の手掛けた仕事が皆さんの目に留まることでしょう。

CMを導入して意識改革を

大藤広暁(部9期)
(株)梅村工務店代表取締役

バブル崩壊後、もがき苦しむ日本経済ではあるが、このような時代だからこそ創意工夫をし、「ベンチャーの志」が大切と考える。特に建設業は旧態然とした業界のしくみに従い、運営されていると思う。

今、建設業(特に当社の様な中小企業)に早急に課せられるのは、企業体質の改善と技術者の意識改革と考える。その為、私共はコンストラクションマネージメントを導入している。従来からの協力業者だけでなく、多くの専門工事会社と出会えることができ、又、社員にも統括・運営するための技術者としての意識改革に役立っている。

又、なれ合いの仕事を払拭し、当社技術者・専門工事会社共に、良い緊張感の中、仕事をしている。

お客様に”より良い建築を安くご提供”する為の大義の下、従来なかなか難しかった設計事務所に対し、積極的に工法・機能・品質の向上及びコストダウン等、確信をもって提言できる様、技術者の能力向上を全社あげて取り組み、努力している。

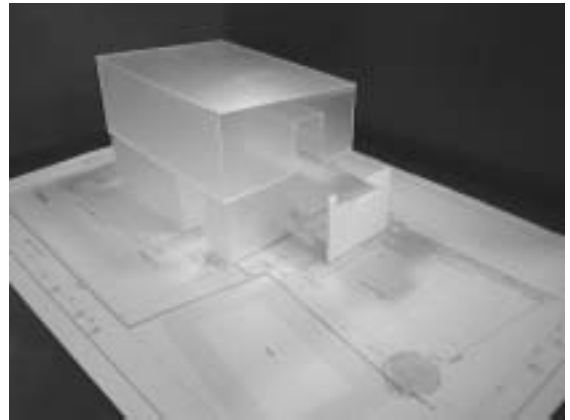
以上の事から、この不況の中、”お陰様での心”を忘れずに正業に励んでいる。

安全性と意匠性の関わりをテーマに

浜野将一(部15期)

最近、計画期間1年、実施設計半年というのんびりとした住宅(K邸)の設計がようやく形になった。といっても設計が終わっただけで、正確に言えば「最近手がけている仕事」ということになるだろう。私は常にクライアントとテーマを決めて計画に入るようにしているのだが、今

回のクライアントが私の幼なじみであり、ここ数年、二科展(グラフィック)に毎年入選ないしは受賞しているデザイナーであるということで、あえて今までと違った進め方をとってみた。確かに時間も労力もかかってしまったが改めて住宅設計の面白さを実感できたと思っている。



- コンセプト模型 -

さて、今回のテーマとなったのが、「安全性・耐久性」と「意匠性」が建築(立体構成)でどう関わっていくかという相関的な問題である。

これは当然のことであるが、全てのデザインは、「安全性」の下に成り立たなければならない。また建築は(私の理想ではあるが)精神的安らぎ(癒し)の要素も含まれなければ「安全」とはいえないと考えている。構造計算上十分安全であると証明されていても、視覚上、体感上または精神的に不安(不快)とさせる形態・形(受け止める側の感性にもよるが・・・)は安全といえないのではないかと。しかし、経年変化による耐力の低下(安全性の低下)の反面、使用されているテクスチャーの変化がその建築の「場所の同一化」=「個性の同一化」を少しでも緩和し、「場所性の確立」(あくまでも形態として)に意匠的な面で役立ち、また個性の開放に発展するような「建築」の関わりが必ず出来るのではないかと考えている。

今回、私が理想とする「建築の安全性」をクライアント(とその家族)の記憶と置換することで形態化してみたのであるが、先に述べた理想を含め、この結論がどうであるか、幸か不幸かまだ先のことである。

築理会新役員が決まりました。

3月に行われた築理会総会に於きまして、築理会新役員が決定しました。新役員のもと更なる躍進を期待して、会長、副会長、各委員会の委員長に抱負を寄せて頂きました。

会長就任にあたって

まことにお恥ずかしい話ですが、ついこの間まで築理会といえば「名簿を作って時々送ってくれる便利な組織」といった程度の認識しか持っていませんでした。(しかし実は大方の会員の方が、私とそう大差のない認識なのではないかと思えます。)



野々村俊夫 (部1期)

今度、前会長の八木君から請われて、会長をお引き受けしました。そして幹事の方々と共に築理会の運営を考えることになって、認識を改めなければならぬことがたくさん出てまいりました。以下就任に当たって考えていることを若干述べさせていただきます。

築理会には五つの委員会があります。企画総務委員会、名簿委員会、会報委員会、事業委員会、情報委員会です。それぞれ、会の活性化のために一生懸命頑張ってもらっています。しかしどんなに委員が意欲を持っていても”先立つもの”が無ければ、活動のしようがありません。とりあえず、築理会の最大の問題は「どうしたら皆様に会費を払って頂けるのか」ということです。今まで会費を払ったことのない方はたくさんいらっしゃると思います。是非会費の支払いをよろしくお願い致します。

さてわが理科大学では、学科別の同窓会組織を持っているのは建築学科くらいで、たいへんめずらしいとのことですが、同窓会というものが果たすべき役割は会員相互のパイプ役であろうかと思えます。そして会員が所属している組織や地域、あるいは世代(期)といった”領域”相互のコミュニケーションの活性化とでも言うべきことかと考えます。私たちは奇しくも東京理科大学の建築学科という共通の”ふるさと”を持っているわけです。そのことを根底において、会員個々人がそれぞれ属している世界の大きいなる発展のために、相互に”触れあう”ことによって”築理会”というブランドのステイタスを

高めていきたいと思えます。熱意に満ちた事務局、幹事の方々と共に一步一步着実に前進したいと思えますので、よろしくお願い致します。

副会長就任にあたって

寺林成子 (部1期)

まさに21世紀が始まろうとしています。しかし、日本経済は明るい兆しを示しているとはいえ、建築をとりまく環境はいぜんとして厳しいものがあります。社会の横の繋がりの必要性が増しており、潤滑油として、築理会もその役割を果たす時代だと思えます。一方、私が興味を持っているイタリアでは、古代ローマ、都市国家、そして現在においても、様々なところに個人というものが感じられます。築理会へ参加の方法も、個人に合ったものを選択できる時代になっています。情報伝達やコミュニケーションのあり方も大きく変わり、インターネット、Eメールなどがあたりまえになってきています。皆様も築理会のホームページにアクセスすることから始めていただければと思っています。私も、女性の方々の声をお伝えするとともに、皆さんが興味を覚え、自由に参加できる築理会にすることに力を尽くしたいと思います。

企画総務委員長より

坂下誠 (部2期)

二期4年の副会長の任期を終え、ほっとしたのも束の間、この度、企画総務委員長をやることになりました。副会長就任時は、2部卒業生の積極的な築理会参加を目標に掲げましたが、少しは力になれたでしょうか?最近では理科大学の気が高いとか。OBの一人として嬉しいことです。会報やホームページを有効に使い、築理会と理科大学の名をもっとアピールしていけたらと思っています。OB諸氏よ、頑張りましょう! 企画総務委員 市川尚紀 (部28期)

名簿委員長より

嵐口晃宏 (部32期)

前任者の田中氏から引き継ぎ、現段階では3人の新名簿委員で活動を開始しています。現在名簿データの管理や訂正などを行っています。別紙の会員住所不明者名簿に掲載のとおり8月の時点での連絡先不明者は780名となっており、皆様からの情報がなければ調べきれない状況になっております。不明者名簿に掲載されている方の連絡先をご存知でしたら、築理会へ連絡をしていただければ幸いです。生きています・役に立つ名簿にするためにも皆様のご協力をお願いします。

名簿委員 田中 治 (部11期) 市川顕司 (部16期)

会報委員長より

森 清(部20期)

会報委員会では、年4回発行というノルマから解放された年2回となる分、内容の充実を図ろうと考えています。ただし、働き盛りのメンバーが多いためか、一堂に会しての打ち合わせもままならない状況です。またマンネリ化を防ぐためにも、この場を借りて20代の若い力を大募集します。誌面では、OBの声をなるべく多く拾うこと、学内の動きを逐次盛り込むこと、を狙っています。内容充実のためにも皆さんからの情報をお待ちしています。

会報委員 伊藤 学(部20期)伊谷 峰(部21期)
安達 功(部21期)千田 猛(部6期)
諸岡伸幸(部10期)中川信浩(部13期)
平賀一浩(部16期)

事業委員長より

入野公男(部15期)

この度、事業委員会の事業委員長を担当させていただくことになりました。二名の副委員長とともに、築理会の発展と会員相互の親睦のために、甚だ微力ではございますが、皆様のご指導、ご鞭撻をたまわり全力で頑張る所存でございます。よろしくお願い致します。

今年度も、築理会研究セミナー、現場見学会およびOBと語る会(築理会インターネットに掲示)を催す予定です。会員皆様のご参加をよろしくお願い致します。また、会員相互の親睦についてのご意見等を電話、FAX、電子メールで築理会あてにどしどしお寄せください。

副委員長 山本耕三(部16期)五十嵐真人(部8期)
事業委員 河合康夫(部8期)佐野吉彦(部14期)
山口秀之(部24期)市川尚紀(部28期)
小野匡昭(部10期)本間靖之(部10期)

情報委員長より

城島匡人(部15期)

築理会ホームページの本格運用を始めました。

ホームページの本格運用のめだまは、一方的な情報の掲示だけではなく、会員相互の情報交換ができるよう、掲示板や会議室を充実したことです。築理会のネットワークを通して、豊かな人脈と充実したビジネスに活かしていただければ幸いと存じます。今後は、ホームページにちよくちよくアクセスして、最新の情報に目を光らせておいて下さい。

ご意見・ご質問等は、info@chikurikai.orgまでご一報下さい。

URL <http://www.chikurikai.org>

情報委員 市川顕司(部16期)平賀一浩(部16期)

会長退任にあたって

八木嘉也(部3期)

3月の総会で2期4年の任期を満了して退任しましたが、新会長のご希望で副会長として引き続き奉仕することになりました。

坂下副会長はじめ常任幹事及び幹事の皆様の大変なご協力、会員の皆様のご支援をいただき、会の運営が無事に進められ感謝とお礼を申し上げます。

この4年間は1期生から会長職をお預かりしたという気持ちで、活性化をめざし、会の発展と会員の皆様に役立つ会となるよう努力してきました。

活動は軌道に乗ったものの会費の集まりがはかばかしくなく活動に制限が加わった感がありますが、多少とも所期の目的は果たせたと思っております。

野々村新会長、寺林新副会長を中心に各委員会も新委員長を選出し、新たな方針のもと会の運営がさらに発展できる体制になりました。

会の運営は、あくまでボランティアとして会員が支えることが必要であり、多くの方が交代でその任をになってほしいと思っています。

今、建築をめぐる環境は厳しいときです。このようなときこそ同窓生の絆が必要ではないかと思えます。皆様の関心を是非寄せていただきたいと願っております。

各委員会メールアドレス決定

築理会ホームページリニューアルに伴い、会長、副会長、各委員会委員長のメールアドレスが決定しました。これにより、会員の皆様のお声が、これまでの築理会FAXよりも素早くダイレクトに各委員会へ届くようになります。

各委員会へのご意見などありましたら、どしどしお送り下さい。もちろん今まで通りFAXでもお受けしております。よろしく申し上げます。

委員会名	委員長氏名	メールアドレス
会長	野々村俊夫	(準備中)
副会長	八木 嘉也	fuku_kaicho_a@chikurikai.org
副会長	寺林 成子	(準備中)
事務局長	大岩 昭之	jimukyoku@chikurikai.org
企画総務委員会	坂下 誠	kikaku@chikurikai.org
名簿委員会	嵐口 晃宏	meibo@chikurikai.org
会報委員会	森 清	kaiho@chikurikai.org
事業委員会	入野 公男	jigy@chikurikai.org
情報委員会	城島 匡人	info@chikurikai.org

新任講師紹介

大月敏雄
工学部建築学科講師

この4月から、第特部建築学科に着任いたしました。専門は建築計画で、集合住宅や住宅地に関わる計画を扱っております。具体的には、戦前に供給された同潤会アパートなどの古い集合住宅、戦前に供給された戸建て住宅群などにおける長期居住現象を分析対象としております。一方で、アジア地域のスラムにおけるまちづくりに関する研究も行っております。



授業では、「設計基礎(特)」(1年前期)、「設計理論(特)」(3年前期・井口先生と共同)、「設計計画(特)」(1年後期)、「設計計画(企)」(2年後期)、「構法計画特論a」(大学院・井口先生と共同)などを担当しております。

井口先生の後任ということもあり、7号館9階の井口研究室の東半分を「大月研究室」として使っております。早速4月から6名の卒論生が入り始めるようになり、手始めとして研究室のペンキ塗りから始め、机やパソコンの購入を経て、それなりに研究室の体裁が整いつつあると思っております。この春まで勤めておりました横浜国大のキャンパス(元ゴルフ場)と比較すると、その立地や周辺環境が180°違うことに戸惑いを感じつつも、極めてアーバンな立地・環境のメリットを享受しております。

〔略歴〕

- 1991年 東京大学工学部建築学科卒業
- 1993年 東京大学大学院工学系研究科建築学専攻修士課程修了
- 1996年 東京大学大学院工学系研究科建築学専攻博士課程単位取得退学
- 1997-9年 横浜国立大学工学部建設学科助手
- 1997年 博士(工学)取得

部設計製図担当の非常勤講師

現在('99年度)、特部設計製図担当の非常勤講師の先生方は以下のとおりである。なお、(特部)は4年間単位でお願いしているので、今年度で変わられる先生もおられる。

村田麟太郎	設製	山下設計
玄・ベルトー・進来	設製	・ 玄・ベルトー・進来
鳥巢 元太	設製	・ アルスデザインアソシエイツ
椎橋 孝	設製	・ スタジオキューブ
杉村 憲司	設製	・ 杉村フリーウッド建築事務所
千鳥 義典	設製	・ 日本設計
村田 靖夫	設製	村田靖夫建築研究室
野田 正治	設製	ナウ環境計画研究所
廣谷 純弘	設製	建築研究所アーキヴィジョン
森島 清太	設製	鹿島建設設計・インテック総事業本部
トム・ヘネガン	設製	アーキテクチャー・ファクトリー
波多江健郎	設製	・ 波多江健郎建築研究室
青島 裕之	設製	青島裕之建築設計室
大宇根弘司	設製	大宇根建築設計事務所
高垣建次郎	設製	高垣建築総合計画

設製(特)(設計製図(特))は2年前期、設製(監)は2年後期、設製(企)は3年前期、設製(協)は3年後期(選択)、設製(労)は4年前期(選択)。今年から3年後期の設計製図(設製(協))は選択必修ではなく一般の選択科目となっている。非常勤講師の中で卒業生(築理会会員)の先生方は、野田正治氏(特-5期・武井研)、椎橋孝氏(特-14期・鈴木研)、廣谷純弘氏(特-15期・鈴木研)、の3氏である。なお、(監部)の設計製図には卒業生としては奥野俊雄氏(特-1期・池松研)の他、上篠美枝氏(特-20期・沖塩研)にも来ていただいている。

連載 研究室紹介(第1回)

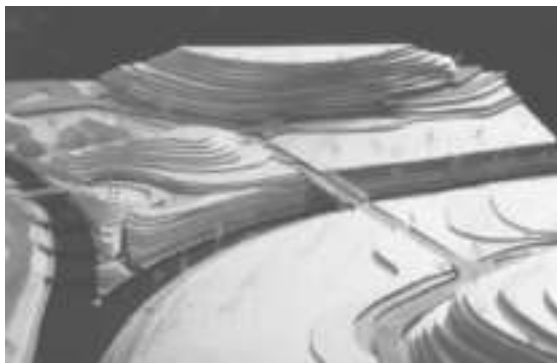
今号より連載企画として、研究室の紹介コーナーを設けました。現在どんな研究をしているのか等、研究室から記事を寄せてもらいます。日常大学から疎遠になりがちなOBの方々に、理科大の今を知ってもらうためにも、この企画を立ちあげました。今回は鈴木研です。どうぞお楽しみ下さい。

鈴木研 最近の研究テーマ

1 設計を入れた水研究

最近の水研究にはその一段階として水空間の設計が重視されるものがある。その設計を模型や写真にして関係者に見せると大切にすべき計画と設計の要点が一目瞭然に伝わり、よく理解され検討しやすいようだ。

たとえば、埼玉県和光市の越戸川の市民緑地の計画と設計の指針研究がその好例である。越戸川は幅5.5m、深さ4mの鋼矢板護岸でできた、市民からは極めて遠い湧き水を流す川だ。この川水に触れ、魚や植物に接することができたら、そしてその近くを子供や犬と散歩できたらどんなに楽しかろうという住民の声がこの研究のきっかけだった。だが市役所の人々には、何回話しかけてもその良さが伝わらなかった。そこで鈴木研の独断で市民緑地と一体になった川空間を設計。模型と写真と大切にすべき指針の箇条書きを一緒に展示した。そしたら、たくさんの市民が質問、意見を届けてくれた。そして、市役所の人々も。中でも、市長と建設部長は模型の前で、「君たちが言っていたことはこういうことか。解った。こんな川ならぜひつくりたい」と即断してくれた。この模型作品を川の近くの住民にも見せた。県の土木事務所にも見せた。そして指針案の内容を吟味した。



埼玉県和光市 越戸川市民緑地計画模型

ここまでの98年の研究である。今年99年には、寄せられた希望を検討し、吟味した詳細設計と指針を作った。関係者にそれを見せてインタビューを計画している。それによって住民と、市と、県の技術者によって重みづけられた越戸川市民緑地の計画と設計の指針案を得ることができると期待している。

模型は指針のすべてを網羅していなくてもかまわないが、見る人の希望を刺激・想起させるような内容を持つことが必要だ。そのために能力ある建築家やその卵が設計する必要があるようだ。

2 小泉隆(特-22)が光研究で博士1号

助手だった小泉隆君がこの3月に博士の審査論文を提出し、数回の審査を経て、7月工学研究科による審査会で合格と判定された。鈴木研第1号の博士である。たくさんの光空間を設定視点から主観的に考察することにより、太陽光空間のイメージ構造を第1部で論じ、第2部では素材と光の量と質を変えた模型実験により、太陽光空間のイメージ構造を明らかにした。彼はこの4月から九州産業大学の講師に着任した。理科大の後任は市川尚紀君(特-28)。



研究室風景

3 屋根研究とアジア水上都市研究

屋根の見えがそのまちに潤いを与え、その建物に個性を与える。

アジアの水上都市研究が興味深い。その地域の気候と地勢を生かした空間づくりの知恵と工夫を教えてくれる。

以上が鈴木研究室の最近の研究テーマである。地域や事例の具体例に即して、これらのテーマが研究されている。

インフォメーション

築理会セミナー - のご案内

1. 1999年度第1回築理会研究セミナー - 「集合住宅における換気問題」
 講師：倉淵 隆(東京理科大学助教授)
 日時：平成11年10月8日(金)19:00 - 20:30
 会場：理窓会館2階会議室
 申込期間：平成11年9月1日 - 9月30日
2. 1999年度第2回築理会研究セミナー - 「解放の速度」
 講師：大江 匡(建築家)
 日時：平成12年2月4日(金)19:00 - 21:00
 会場：理窓会館3階会議室
 申込期間：平成12年1月1日 - 1月31日
1. 2. 共通
 参加費：1,000円(今年度築理会費納入者)
 2,000円(一般及び今年度会費未納者)
 無 料(東京理科大学学生・院生)
 申込先：東京理科大学 工学部 市川尚紀
 Tel 03-3260-4271(内3482)
 Fax 03-3260-6316
 E mail : ichikawa@chikurikai.org

例年どおり「現場見学会」「OBと語る会」を10月から12月にかけて開催する予定ですが、詳細につきましてはまだ決定しておりません。期近になりましたら、築理会ホームページに掲載しますのでご覧下さい。ホームページをご覧になれない方は築理会事務局までお問い合わせ下さい。

本年より経費節約のため築理会報は年2回発行となりました。そのため、会報発行時に間に合わないお知らせは、ホームページに掲載する事になります。ホームページをご覧になれない方にはご不便をおかけしますが、御友人等を通じて築理会の動向に注目して頂ければ幸いです。なお、「築理会セミナー」「現場見学会」等につきましては、建築関連の雑誌にも掲載して頂きますのでそちらもあわせてご覧下さい。

「編集後記」

「ばあっと自慢話でもぶちまけてもらおうか」ということで、特集のテーマを決めたのですが、なかなかそういう論調にはならないようです。こういう時期は仕事の話に触れていいものやら悪いものやら。最近ライフワークをやり遂げた、賞をとったという方がいたら、景気付けのためにもご一報を。(森清)

築理会報99夏号

99年9月発行 Vol.25

編集長 : 森清

編集委員 : 伊藤学、伊谷峰、安達功、千田猛、
 諸岡伸幸、中川信浩、平賀一浩

印刷発送 : グローバルシステム株式会社

平成11年会費納入のお願い

現在、平成11年度の会費の納入をお願いしております。未納の方には振込用紙を同封しておりますので、お振り込み下さい。

今後のさらなる築理会発展のためにご協力をお願いします。

年会費 3,500円
 口座名 築理会
 郵便振替 00110-5-171952
 銀行振込 東京三菱銀行神楽坂支店 普通4335597

募集します！

会報委員会では、築理会報の各コーナーへの記事を募集しています。どんな些細な情報でも首を長くしてお待ちしております。また、建築にこだわらず、おいしい料理の作り方や、うまいラーメン屋情報、あなたの楽しい旅行記、その他の記事・情報、また、はみだしチクリにもどんどんお寄せください。築理会あてFAX若しくは電子メールにてお知らせください。

データ確認カード返送のお願い

住所、職場、部署等に変更のございます方は、下記データ確認カードにご記入の上、築理会事務局までご返送下さいます様お願い致します。

最新データに基づいた名簿作成、編集のためご協力をお願い致します。

送付先：建築学科事務室内・築理会事務局

名簿作成委員会

築理会員データ確認カード		記入日：19 / /
ふりがな：	卒業年	年3月
名前： (旧姓)	(期 研)	
	<input type="checkbox"/> 部	<input type="checkbox"/> 部
ふりがな / 勤務先：		
ふりがな / 部署・役職：	TEL	
	FAX	
電子mail：		
現住所：(〒)	TEL	FAX
電子mail：		
現住所以外の安定的な連絡先、具体的な連絡方法及びTEL：		
所属学会	<input type="checkbox"/> 日本建築学会	<input type="checkbox"/>)
<input type="checkbox"/>)	<input type="checkbox"/>)	<input type="checkbox"/>)
通信欄		

お手数ですが拡大コピーをしてFAXにてお送りください。